

青少年委員だより

明るい『笑顔』 輝く『未来』

第152号



平成31年3月17日(日) 『10代の挑戦』 (東部区民館)



子どもたちの笑顔のために

江戸川区教育委員会

教育長 千葉 孝

三十数年前、江戸川区に入って最初に配属されたのが、事務所の自治係（現在の地域サービス係）でした。青少年育成地区委員会の担当となり、青少年委員の皆様と関わらせていただくこととなりました。そこで、平日の夜間には様々な会合や研修活動への参加、そして日曜・休日には早朝より地域学校、地区委員会等による子どもに関わる事業への協力と休むことなく活動し続ける青少年委員の姿を目の当たりにして驚きました。

「なぜ人の子どものためにこんなに一生懸命になれるんだろう？」ある委員に訊いてみました。その方はちよつと困ったような表情を浮かべ、「なぜって、自分の子ども人も、子どもは皆笑っている方がいいだろう？」

忘れられない言葉です。

『子どもは社会の宝』これはいつの時代にあっても、変わらない思いでしょう。どの子どもにもそれぞれの夢があり、その夢が実現できるよう家庭、学校そして地域が温かく支える。これが、子どもの健やかな成長を願う社会の姿であると思います。

しかし近年、少子化の進行や家族形態の変化、さらには価値観や生活様式の多様化などにより、子どもを取り巻く環境は厳しくなっております。特に昨今はいわゆる「子どもの貧困」など、社会経済状況や保護者の状況により苦しい環境に置かれ、将来に夢や希望を持たない子どもの存在も明らかになっております。

子どもたちには時代の変化に対応しうる“生きる力”をしっかりと身につけてもらいたい。家庭・学校そして地域のより強い連携が必要とされるなか、青少年委員の皆様の果たす役割は一層重要になると考えます。

江戸川の子どもの明るい『笑顔』のため、そして輝く『未来』のために、青少年委員の皆様のご協力をお願い致します。

「小松菜魂」江戸川っ子の粹！ 10代の挑戦 EDOGAWA



「第12回10代の挑戦EDO」

GAWA」が晴天の平成31年3月17日(日)、東部区民館で開催され、多くの地域の方々にお越しいただきました。

このイベントは、江戸川区青少年委員会の川島会長が実行委員長を務め、6館の共育プラザで活躍する中高生たちが地域の皆さんと協働し、開催する一大イベントです。企画・立案・広報や当日の運営・警備など、すべてを中高生スタッフが行っており、迫力のあるステージやアイデア満載のブースなど、“10代らしさ”があふれる催しとなっています。

今年のスローガンは「小松菜魂」。これは江戸川っ子特有の粹で活発な精神を表現し

ているそうです。

青少年委員からも実行委員3名をはじめ、総勢15名がダンスやバンドなどのステージ、お化け屋敷などのアトラクション、模擬店で活躍する中高生の見守りやサポートをしました。また、今年初の試みとして青少年委員独自のブースを出店し、フランクフルトの販売も行いました。

そのほか、東京2020オリンピック・パラリンピックのPRとして、ポッチャ体験やVR（バーチャルリアリティ）を使ったカヌー競技の体感コーナーが設けられ、楽しいアトラクションと頑張る中高生の笑顔に満ちた一日でした。

(文責・東部地区・大橋一成)



祝・卒業〜朝日とともにゴールを目指す〜 第26回小学校卒業記念ナイトウォーク

平成31年3月23日(土)・24

日(日)に、小松川平井地区委員会においてナイトウォークが開催されました。平成5年に参加者200名でスタートしたナイトウォークは、今年で26回目の開催となり、地区の小学校6年生317名、保護者131名、地域の協力を合わせて639名が参加しました。昨年、東京都から

「青少年健全育成地区委員会等推進モデル」に指定された地域自慢のイベントです。

夜10時に小松川小学校をスタート、京葉道路を西に進み、半蔵門、銀座中央通り、永代橋通り、木場公園、仙台堀川公園を通り小松川小学校に戻る全長27キロのコースにチャレンジしました。

曇り空の寒い夜でしたが、



24時間働き続けるビルの明かり、開花したばかりの夜桜、にぎやかな都会の夜の姿、快晴の夜明けに昇る朝日を見ることができました。

子どもたちは、学校ごとに編成した班員とともに、夜間・徹夜・長距離歩行の“未知の体験”を通して、仲間と行動する連帯感や達成した充実感を味わったことと思います。この経験がこれからの中学校生活の自信につながればとてもうれしいです。

私たち青少年委員は、事前の実地踏査に参加し、当日は歩行リーダーとしてイベントにかかりました。地域の方々は、子どもたちのサポートのため、交差点での誘導、十数台の伴走車の運転、おやつ準備などをしてくださいました。また、体調不良時の対応や安全面の確保のため、医師や警察の方にも同行いただき、多くの方々の協力が



あつて無事に成功することができました。

このイベントを通じて、地区委員や団体相互間の団結と良好な関係が築かれることが、青少年の健全育成につながると思います。ナイトウォークに参加した子どもたちが将来、地域のボランティアとして活躍できる地域づくりをめざしていきたいと思います。

(文責・小松川地区・内藤良明)

境内に輝く70の瞳〜お寺で過ごす2日間〜
「お寺に泊まろう! 2019」

平成最後の土日となった4月27・28日に、中央地区部会主催の「お寺に泊まろう! 2019」が実施されました。



時折小雨のばらつく肌寒さを感じる天候の中、大杉第二小学校に集合した中央地区内の小学5・6年生35名は、目的地である小岩の善養寺を目指し元気に出発しました。スタッフとともに夕飯のトッピング

食材をかけたクイズに挑戦しながら1時間半ほどの道のりを歩きました。



善養寺では副住職の案内で境内を見学し、スケッチを楽しんだ後はグループごとに夕飯作りを開始しました。スタッフに見守られながら飯ごう炊飯とカレー作りに一生懸命取り組んでいました。また、午後6時には鐘つきを体験して、夕食後はレクリエーションです。青少年委員会の「わくわくレクリエーション研究グループ」協力のもと、炎を囲み、体全体を使ったゲームに楽し

い一時を過ごすことができました。その後、肝試しを行い高揚した気分のまま部屋へ。気持ちを落ち着かせる呼吸法を副住職から伝授していただき、1日目のプログラムを終了し就寝となりました。

2日目は6時に起床し、ラジ体操、境内の清掃を行い朝食の準備に取りかかります。打ち解けたグループの仲間と楽しそうに、すいとん粉をこねたり、個性豊かに野菜を切ったりと思いいいに取り組んでいました。朝食後は最後のプログラム、ポッチャの対抗戦です。自分たちで名付けたチームの勝利に向けて熱い戦いが展開され、大いに盛り上がりました。

お礼の会では、参加した子どもたちのメッセージを貼った色紙を、グループの代表者が副住職へ感謝の言葉を添えて手渡ししました。副住職からは「今回の経験をこれからの生活に活かしてほしい」との



お話がありました。子どもたちは、親子は、親元を離れて過ごし、た2日間の体験を胸に、それぞれの家庭へと戻っていきま

した。AI技術が加速度的に進む令和の時代を迎え、子どもたちが興味あることに挑戦する勇気を持ち続けてほしいと思

うとともに、そんな機会をこれからも作っていききたいと思

いました。
(文責・中央地区・鈴木洋子)

「春フェス」で子どもたちと交流

第8回共育プラザ一之江「春フェス」が平成31年4月14日(日)に開催され、中央地区部会及び紙芝居研究グループの委員12名が参加協力しました。

プラザでは、焼きそばなどの模擬店やスポーツ体験、ゲームにダンスや手遊びなど、小さな子どもから中高生、大人まで楽しめるものが用意されていました。私たち青少年委員はスタンブラリーの景品交換とパラSPORTSの車いすバスケットボール、ブラインドサッカー体験に協力しました。

車いすバスケットは実際に車いすに乗って体験します。上半身だけでシユート打つためとても難しく、ブラインドサッカーもアイマスクをしているため、自

春フェス @共育プラザ一之江



分がどこを向いているのかさえ分からなくなるなど、どちらも大変な競技でした。また、景品交換を担当したグループは景品のバルーン作りで、子どもたちからのリクエストに大忙しでした。紙芝居研究グループの口演は、子どもたちが食い入るように見つめ、楽しいひとときを過ごしていました。多くの子どもたちと交流し、充実した時間を過ごすことができました。来年も協力したいと感じた一日でした。

(文責・中央地区・関 清孝)

「道具となかよし」は、区内の小学生4年生から6年生を対象として、古くから使われている道具につまんだ知恵や工夫を6回に分けて学ぶ講座です。私たちの生活に欠かせない建築や時間の計測などにどのように活かされているかを体験するものです。

全6回の講座のうち、建築業に携わる現役・OBの青少年委員などが中心となり、最初の2回の講座を担当させていただきました。

現職の大工さんの指導のもと、家を建てる際に基本となる真つすぐな線の引き方や水平や垂直のとり方などを、古くから使われている道具と現在の最新技術と比較しながら体験。その中に活かされていた科学的な

道具となかよし @子ども未来館



工夫や技術を学ぶことができました。

また、講座の最後には釘を真つすぐに打つ方法を学び、小鳥の巣箱を作成しました。この巣箱は子ども未来館の別の講座で観察に使用するとのことでした。

私たち青少年委員は、日ごろはさまざまな職業に従事しています。各々のスキルを活かせる場として、このような講座に参加させていただけるとは意義のあることだと実感しました。

(文責・東部地区・鷺尾 斎)

「道具となかよし」に参加!

紙芝居文化研究グループ

紙芝居文化研究グループは5期10年目になり、今期は7名でスタートしました。新メンバーが加わり、始めに手掛けたのは「なぞなぞ」の制作です。「なぞなぞ」は、イベントで紙芝居を口演する前や合間に行います。呼び込みと、聴くことに集中させる効果のために活用しています。

これまで地区部会や他の研究グループと連携し、毎年恒例となっている学校イベントや地域まつりで紙芝居を上演する機会をいただいて活動してきました。少ない人数のグループなので、他の青少年委員や中学生ボランティアに協力をお願いしながら活動しています。

去年は、今年3月に閉校となった上一色小学校のすくすくスクールの児童が書いた絵をもとに、記念の紙芝居「パオのぼうけん2」を作り、上一色小学校のイベントや展示会でお披露目することができました。

今年のオリジナル紙芝居は、江戸川の昔ばなしの第3作を制作しています。

子どもたちの笑顔を見たい

作品ごとにストーリーの表現を工夫するの、制作する楽しみの一つです。また、前期には、「子どものための防災教室」をテーマに「パネルシアター」(パネル布を貼った舞台に、絵を貼ったりはがしたりしながら話を展開させていくもの)を制作しました。屋外イベントには不向きなため、屋内で披露できる方法を考え、充実させていきたいと思っています。

これからも、紙芝居を見る・聴く、そして希望があれば子どもが紙芝居を読む機会を作りたいと思います。子どもたちの笑顔を見るために活動していきます。(リーダー・文責・廣木米子)



パネルシアター



「パオのぼうけん2」展示



平井東小学校 (9月)



中央地域まつり (5月)



上一色小学校 (9月)



中央・一之江ふるさとまつり (10月)



新堀小学校 (12月)

おもしろ工作研究グループ



松ぼっくりのブローチ



折り紙のひな飾り



バタバタ蝶と鳥



チェーンパズル



麻ひものリース



紙コップ万華鏡

折り鶴や風車、竹とんぼ。小学生のころ、簡単に手に入る折り紙や竹、ストローなどで手づくりし、夢中になって遊んだ懐かしい記憶は誰にもあります。こうした「身近なもの」を使って工作し、遊び方を工夫する楽しさを伝えていくため、「おもしろ工作研究グループ」は、子どもたちと一緒に楽しむ姿を思い描きながら、毎月第2金曜日に14名で活動しています。

今期前半は、ストローを使ったバタバタ動く蝶や鳥、紙コップ万華鏡、牛乳パックチェーンパズル、折り紙祝い鶴、折り紙ふきコマ、麻ひものクリスマスリース、折り紙で作るひな飾り、松ぼっくりを使ったブローチ・動物など、各家庭にあるものや自然の落し物を使ったさまざまな作品づくりに取り組んでいます。

どの作品も子どもから熟年者まで世代を越えて作れる作品であり、作った後の楽しみ方を広げられます。紙コップ万華鏡は、2枚の偏光シートを四角く切り取ったコップの底にそれぞれテープで留め、セロテープをランダムに重ね貼りするだけ。のぞき込むと、左の



青少年委員活動の大きな特徴に研究グループ活動があります。2年(1期)ごとに青少年委員が研究したい分野を考え、グループで活動を行っています。今期は6グループが活動しており、研究で習得した技術や能力を、地域活動の中で実践しています。

手作りの文化を伝えたくて

写真のような色の変化を楽しむことができます。

工作中的の光景は、いつも全員が寡黙になり、時折独り言が聞こえるだけ。完成したときの喜びとその後の遊びに童心に返ったように夢中になります。でも、うまくできなかったとき、どう見ても左右のバランスが不自然なときにはもう一度チャレンジ。地域まつりなどで参加する子どもたちは頭をひねり、いつもと違うやり方をするなど、なぜ上手くいかなかったか原因を考え、探りながら、友達と一緒に遊べる中から発見と体験を繰り返していきま。私たちはこの作る楽しさを知り、満足そうな笑顔で遊ぶ姿を見るのが大好きです。

毎年行っている新島村での交流会では、一つひとつのオリジナル作品の持つ魅力をしっかりと伝えられたことと、子どもたちの屈託のない笑顔に接して、「手作り文化」をこれからも大切に伝えていこうという気持ちになりました。(リーダー・岩楯英子 文責・山田通久)

3月定例会

「なごみの家」の理解を深める

平成31年3月15日（金）の3月定例会研修では、「なごみの家」について理解を深めるためのグループ討議を行いました。

まず、社会福祉協議会のなごみの家運営係長・小沼氏から、なごみの家を設置した経緯やコンセプトの説明を受けました。今後も、何でも相談でき、子どもから熟年者まで誰でも集える交流の場を提供し、地域のネットワークをつなげるなごみの家を増やしていきたいとのことでした。

地区部会ごとに分かれたグループ討議では、各地区に設置されたなごみの家の所長を囲んで詳しい活動状況などを聞き、青少年委員がなごみの家とどのように関わっているかなどを話し合いました。各グループとも予定した時

間では足りないぐらい熱心に意見交換を行っていました。今回の研修を通してなごみの家がより身近に感じられ、今後、各地区部会との連携や研究グループの活動の場となっていくことを期待できる研修会となりました。（文責・中央地区・関清孝）

なごみの家MAP



新委員紹介



小林智夫 令和元年6月1日委嘱



山本貞一 令和元年6月1日委嘱



岩田光輝 平成31年4月1日委嘱

あとがき

令和最初の「青少年委員だより」を発行させていただきました。今号より、私たち自慢の「研究グループ」をご紹介します。日ごろ、青少年委員や各研究グループがどのように子どもたちのために活動しているかをお伝えしますので、楽しみにしてください。

広報部一同

青少年委員だより

発行 江戸川区青少年委員会
編集 広報部
連絡 江戸川区文化共育部
健全育成課青少年係

☎ (五八六二) 一六二九